

同じ話を繰り返して

子供を知能の高い子供にしたかったら、話をしてやることに努めなければなりません。幼児は、話を聞くことによって、言葉を理解し、言葉を覚え、言葉を使うことが出来るようになるのです。

幼児は、母親からお話を聞くことを何よりも喜びます。昔話など、毎日、何回聴いても決して飽きるということを知りません。だから、気に入ったお話は、一日に何回も繰り返して話すように求めます。

私も、娘が幼児だったころ、毎晩、就寝する時刻になると、同じお話をせがまれました。少しも飽きないのです。それも、毎晩、同じ話を三回もさせられます。終わるや否や、「もう一回」と言うのです。

いくら可愛い娘のためでも、毎晩、同じ話を三回繰り返すのは、大人にとっては忍耐の要ることです。時にはつらくて、話を早く終えようと思って省略しますと、娘は途端に「違う」と言います。とぼけると、その省略した所を自分で補います。

それほどよく憶えてしまっている、父親にその話をしてもらいたいのです。そして、お話の同じところで、きまっておもしろそうに笑うので

す。「よくも同じお話でこうも楽しそうに笑えるものだ。うちの娘は少し足りないのではないかしら」と、心配したこともありました。しかし、実はそうではないのです。これが子供のほんとの姿で、それだからこそ言葉を習得して、言語能力を育てることが出来るのです。大人のように飽きっぱかったら、言語能力は決して育ちません。

同じ話を繰り返しせがまれる親はつらいでしょうが、子供の能力を伸ばすためには、我慢して、いやな顔をせずに、繰り返し話してやらなければなりません。また、親としては、お話をせがまれる親にならなければ、良い親だとは言えない、と思います。